

本文

【白文】

島初赴<sub>レ</sub>拳、在京師<sub>ニ</sub>。一日於驢上得句云、「鳥宿池邊樹、僧敲月下門。」始欲著<sub>レ</sub>「推」字、又欲著<sub>レ</sub>「敲」字、①鍊<sub>レ</sub>之未<sub>レ</sub>定。於驢上吟哦、②引<sub>レ</sub>手作<sub>レ</sub>推敲之勢<sub>ニ</sub>、觀者訝<sub>レ</sub>之。時韓愈權<sub>ニ</sub>京兆尹<sub>ニ</sub>、車騎方出。島不<sub>レ</sub>覺、行至<sub>ニ</sub>第三節<sub>ニ</sub>、尚為<sub>ニ</sub>手勢未<sub>レ</sub>已<sub>ニ</sub>。俄為<sub>ニ</sub>左右<sub>ニ</sub>擁至<sub>ニ</sub>尹前<sub>ニ</sub>。島具對<sub>ニ</sub>所得詩句<sub>ニ</sub>、「推」字与「敲」字未<sub>レ</sub>定、神遊<sub>ニ</sub>象外<sub>ニ</sub>、③不<sub>レ</sub>知<sub>ニ</sub>迴避<sub>ニ</sub>。愈立<sub>レ</sub>馬良久、謂<sub>レ</sub>島曰、「④『敲』字佳矣。」遂並<sub>レ</sub>轡而歸、共論<sub>ニ</sub>詩道<sub>ニ</sub>、留連累日。

【書き下し文】

島 初め拳に赴きて京師に在り。一日 驢上に於いて句を得て云ふ、「鳥は宿る 池辺の樹、僧は敲く 月下の門。」と。

始め「推」の字を著けんと欲し、又「敲」の字を著けんと欲し、之を鍊りて未だ定まらず。

驢上に於いて吟哦し、手を引きて推敲の勢を作す。観る者 之を訝（いぶか）る。

時に韓愈 京兆尹を権（かね）たり、車騎 方（まさ）に出づ。島 覺えず、行きて第三節に至り、尚ほ手勢を為して未だ已（や）まず。

俄（にはか）に左右の為に擁せられて尹の前に至る。島 具（つぶ）さに得る所の詩句、「推」の字と「敲」の字と未だ定まらざるを対（こた）へ、神 象外に遊びて、迴避（くわいひ）するを知らず、と。

愈 馬を立つること良（やや）久しく、島に謂ひて曰く、「『敲』の字佳（よ）し。」と。遂に轡（くつわ）を並べて帰り、共に詩道を論じ、留連すること累日なり。

### 【注】

- ・島…賈島（かとう）。唐の詩人。
- ・京師…みやこ。長安。
- ・驢…ろば。
- ・吟哦…詩を口ずさむこと。
- ・京兆尹…長安を治める長官。ここでは韓愈を指す。
- ・神遊象外…心が現実（眼前の物事）の外で遊んでいること。
- ・留連…名残を惜しんで離れずにいること。

## 設問

1. 次の「於」の読みと意味として正しいものを後から選び、記号で答えよ。  
「一日於驢上得句」
  - ア 「より」と読み、起点を表す
  - イ 「において」と読み、場所を表す
  - ウ 「を」と読み、対象を表す
  - エ 「ああ」と読み、感嘆を表す
2. 波線部「鳥宿池辺樹、僧敲月下門」を書き下し文に改めよ。
3. 傍線部①「鍊之未定」を現代語訳せよ。
4. 傍線部②「引手作推敲之勢」とあるが、賈島が手で行った動作はどのようなものか。「推」「敲」の字義をふまえて説明せよ。
5. 故事成語「推敲」の意味を説明せよ。
6. 「推敲」を用いた短文を一つ作れ。
7. 「推敲」のもとになった、賈島が迷った二字を漢字で答えよ。
8. 「推敲」という語の成り立ち（なぜ「推す」と「敲く」の二字でこの意味になるのか）を、故事の内容にふれて説明せよ。
9. 「観者訝之」の「之」は何を指すか。本文中の事柄を用いて答えよ。
10. 本文中の「京兆尹」とは、ここでは誰を指すか。人名で答えよ。
11. 傍線部③「不知迴避」を、主語を補って現代語訳せよ。
12. 傍線部④「『敲』字佳矣」を現代語訳せよ。
13. 本文末尾「遂並轡而帰、共論詩道、留連累日」から、この後の賈島と韓愈の関係についてどのようなことが読み取れるか。簡潔に説明せよ。
14. 「推」「敲」の二字について、賈島は何に迷っていたのか。本文の内容に即して簡潔に説明せよ。
15. 賈島が韓愈の行列に気づかずぶつかってしまったのはなぜか。本文の語句を用いて説明せよ。

16. 韓愈は賈島に対して、最終的にどちらの字をよいと言ったか。漢字一字で答えよ。

17. 次の語の本文中での読み（現代仮名遣い）を答えよ。

- ① 訝
- ② 俄
- ③ 良久

18. 次の語の意味を答えよ。

- ① 吟哦
- ② 留連

19. この故事の出典となった書物の名を答えよ。

20. この逸話に登場する大文学者で、唐宋八大家の一人にも数えられる人物は誰か。人名で答えよ。

21. 賈島が「推」と「敲」のどちらを用いるかで悩んでいたのは、もともと何という作品（詩句）の一句についてか。本文中の詩句を白文で抜き出して答えよ。